

北海道苫前商業高等学校

報道記事

令和7年4月～

朝日新聞

北海道新聞

日刊留萌新聞

北海道通信社

日本農業新聞

苦前商高生 北大祭に初出店



北大祭で苦前のPRに意欲を見せる苦前商業高生

北大祭は6～8日に開かれ、学生や近隣住民らが地域の特産品を販売す例年10万人が訪れる一大イベント。期間中、「ま頭部分を使った「お頭」を題して、道内各地の高校や観光協会など6団体

苦前商業高生の「TO

【苦前】苦前商業高生が7日、札幌市北区の北大キャンパスで開かれる北大祭に模擬店「TOMA CAFE」を初めて出店する。入れたてのコーヒーと、地元のカボチャなどを使ったスイーツを販売する。生徒たちは「札幌で苦前をPRし、知名度を上げたい」と張り切っている。

「コーヒー、地元産スイーツ あす販売

MA CAFE」は7日午前9時～午後5時に出店。2、3年生の6人が入れたてのコーヒー、苦前産カボチャを使った「カボレース」「かぼタルト」などスイーツ（250～300円）5種類を計約1300個販売する。

6人は放課後に打ち合わせやレジ打ちの練習を重ねている。店長を務める長谷川靖幸さん（16）は「目標は完売。やってみせます」と自信を見せる。山本ひな子さん（17）は「元気よく明るく接客して盛り上げたい」と笑顔で話している。

カフェは地域の魅力発信の役割も担う。村上芽華さん（17）は「苦前のいいところをいっぱいPRして、世界中に苦前を知つてもらいたい」と意欲的だ。

（森麻子）

目標は完売 「マチのいいところPR」

今年はあんどん2基が行進

【苦前商高】
「苦商祭」

YOSAKOIを披露

校祭のあんどん行列、YOSAKOIソーラン演舞披露が13日、町公民館などで行われ、生徒たちと地域住民が共に夏のひとときを樂んだ。

【苦前】苦前商業高校(板野成人校長、生徒52人)学



あんどんを背にYOSAKOIソーラン演舞を披露する生徒たち

しんだ。
あんどん行列は、同校の学校祭「苦商祭」に合わせて行われる伝統行事。生徒数の減少などにより一時途絶えていたが、令和3年の学校祭で21年ぶりに復活。以降、地元建設協会があんどん製作に作業場所を提供するなど、地域の支援を受けながら続けられている。4年からは、あんどん行列に加え新たな伝統の一

練習を重ねたYOSAKOIソーラン演舞の披露も行なわれている。

今年は、前夜祭の12日午後7時過ぎに生徒製作のあんどん2基が同校を出発。生徒や教職員に加え、保護者ら地域住民が連なり古丹別市街地を巡回。沿道には多くの地域住民が集まり、温かな声援を送った。

途中、立ち寄った町公民館駐車場では、あんどん2基を背に生徒たちが整列。生徒を代表して2年生の高橋呂玖野君(16)が「キャンプファイヤーをバックに披露した昨年を超えます」と力強く宣言したあと、YOSAKOIソーラン演舞を披露。2枚の旗が大きく振られる中、躍動感いっぱいに踊り練習の成果を発揮。見守る地域住民から大きな拍手が送られた。

今年は、前夜祭の12日午後7時過ぎに生徒製作のあんどん2基が同校を出発。生徒や教職員に加え、保護者ら地域住民が連なり古丹別市街地を巡回。沿道には多くの地域住民が集まり、温かな声援を送った。

(雪田康一郎)

苦前商高町内イベントでカフェ

全校生徒で盛り上げる

トマトカレーなど販売

【留萌発】苦前商業高校

大きく貢献した。

(板野成人校長)は7月27日、苦前町内で開催された第22回風車まつりで軽食などを提供する「TOMAC A-CAFE」を出店した。地元

同校では、町のイベント等で、授業で開発した商品を販売・提供する「TOMAC A-CAFE」を出店している。

農家の協力を受けて開発した苦商トマトカレーやカボチャを使用したスイーツ、冷たい飲み物を販売。町の一大イベントの盛り上げに

今回は初めて全校生徒が参加。4グループがシフト制で接客や調理を担当した。

協力を受けて開発した苦商トマトカレー、町特産のカボチャを使用した「かぼた

1年生の人数が多いので、アドバイスをしながら接客していく」と話した。

会場では、町内の農家の



写真II

のスイーツなどが出店スペースに並んだ。生徒は4グループに分かれて、調理や接客にシフト制で対応。「冷たい飲み物も販売しています!」など、元気良く商品を売り込んだ

北海道通信

苦前商高 札幌で生徒販売実習会

13日に「苦前市場」開店

カボチャ使用のスイーツ等

【留萌発】苦前商業高校

生徒が考案した苦前町産の

(板野成人校長)は13日午

カボチャを使用したオリジ

前10時から、札幌市内の大

ナルスイーツや町の特産品

通ビッセ地下2階フロアで

などを販売する。3年生の

生徒販売実習会「苦前市

三好光さんは「最後の販売

実習を悔いなく、笑顔で売

り切れるよう頑張りたい」と力

強く宣言した。

終了時間は午後3時45分を予定

している。

実習会は、生徒が関係者らと

話し合った。

また、同日は苦前会場と

して同校にカフェスペース

を開設。1年生が飲み物などを提供する。時間は午前10時から午後2時まで。



完売を目指す
三好さん
(左)と佐藤
さん

交渉・調整を担い、特産品や野菜などを仕入れて販売することで、苦前の地域振興やPRを目的としたもの。今回で5回目を迎え

る。

当日は2・3年生、計15

人が参加する予定。学年ご

とのグループに分かれて、町内の農家が育てた野菜や

生徒が苦前町産のカボチャを使用して開発したスイーツ、シカの角を加工した箸置きなどを販売する。

2年生の佐藤亜美さんは「完売が目標。元気良く高校生らしく売り、来年以降にもつなげていきたい」と話した。

また、同日は苦前会場と

して同校にカフェスペース

を開設。1年生が飲み物な

どを提供する。時間は午前

10時から午後2時まで。

苦前商高の高橋さん、輪島さん

日本の良さを再確認

N Z留学で町長表敬訪問



福士町長に土産を手渡す高橋さん(中央)と輪島さん(右)

【留萌発】苦前町の国際交流事業としてニュージーランドでの語学留学に参加した苦前商業高校(板野成)

5日、苦前町役場を表敬訪問した。福士敦朗町長と開発法起教育長に現地での学びを報告。高橋さんは「他の国と日本の違

人校長)の高橋呂玖野さん(2年)、輪島維俐さん(1年)が

月6~19日の期間で、高橋さんと輪島さんの2人が語

学や現地の文化について学んだ。

5日には、福士町長と開発教育長のもとを訪問して

実施報告。2人は現地での学校生活やホストファミリーと過ごした休日の思い出を紹介した。輪島さんは「自分の成長を感じることができた。短い期間でも自

分がこんなに変わることができたことを実感している」と話した。

福士町長は「外国と自分の住んでる地域の良さを

知る貴重な機会だったと思

いを知ることができ、あらためて日本や自分の住む場所の良さを知ることができた」と笑顔で話した。

交流事業は、高校生が諸外国の文化・歴史に触れ、広い視野と国際感覚を有する人材を育成することを目的としたもの。本年度は8

月6~19日の期間で、高橋さんと輪島さんの2人が語

学や現地の文化について学んだ。

報告終了後、2人が現地

で購入した菓子などを手渡

し、謝意を伝えた。

いを知ることができ、あらためて日本や自分の住む場所の良さを知ることができた」と笑顔で話した。

交流事業は、高校生が諸

外国の文化・歴史に触れ、広い視野と国際感覚を有する人材を育成することを目的としたもの。本年度は8

月6~19日の期間で、高橋さんと輪島さんの2人が語

学や現地の文化について学んだ。

5日には、福士町長と開

発教育長のもとを訪問して

う。今後に生かしてほしい」と話した。

報告終了後、2人が現地

で購入した菓子などを手渡

し、謝意を伝えた。

きょう公民館フェスで販売「将来はレトルトに」

【苦前】苦前商業高の生徒有志6人が、地元の古丹別産ミニトマトをたっぷり使ったカレーを開発した。25日に始まる町の公民館フェスティバルで、同日正午から1食600円で50食販売する。生徒は「将来はレトルトでカレーとして売りたい」



オリジナルカレーを販売する苦前商業高の生徒たち。中央が高橋さん

と意気込んでいる。

同校は町内外のイベン

トで、生徒がコーヒーやスイーツを販売する「苦カフェ」を出店しているが、食事メニューがなかなかついたことからカレーを提供しようと考えた。「店長」を務める2年の高橋

呂玖野さん(16)はもともと料理好き。子どものころからハンバーグやカレーを作つて家族にふるまい「喜んでもらえるのが楽しかった」といい、レシピ作りに挑戦した。

カレーには古丹別産ミニトマトを加え、スパイスを配合したり、ナッツを使つたりと試行錯誤を重ねてレシピを考案。町内の飲食店のアドバイスも受けニンジン、タマネギ、ナスなどをたっぷり使つたオリジナルカレーが完成した。

商業高生らしく原価計算もを行い、材料を厳選した。試食した同級生からは「辛すぎず、スペイスが効いている」「野菜嫌いでも食べやすい」と好評だったという。

メンバーの佐藤由美さ

ん(2年)は「めっちゃおいしくできた」とPR

する。高橋さんは「応援し

てくれるまちの皆さんの思いがこもつたカレーになった」と完

売に期待する。(森麻子)

苦前商高生 地元トマトカレー



芦前町で開かれた町民フットサルフェスティバル2025

【苦戦】町スピーチセ
ンター主催の町民フット
サルフェスティバル20
25が、15日午後6時か
ら同センターで開かれ、
出場した9チームの選手
たちが、白熱の攻防を展
開した。

苦前中学校、苦前商業高校や羽幌高校の生徒や教職員、母国のカメルーン、インドネシア、アメリカから遠く離れた町内で働く若者など)で構成した9チームがエントリ

9チームが白熱の攻防

3チームずつ本戦の

1

た9チームがエントリ

て働く若者などで構成し

「ちがい離れた町内

ンヤントネシアアノ
一ハの書 進レーテリ

教職員 国の方スル

高橋や茅舡、高橋の生徒や
又戦員、母國の力、ノ

吉首中學
吉首商業

七
詩言

10

卷之三

りを目的とした恒例のイベント。

選手たちは和気あいあいのムードの中にも闘志満々。巧みなバスワークで相手チームのディフェンスをかわし、シュート

△交流リーグ ①寺の
子（森口新太、相間野時
音、鈴木聖岳、山本昊
承、渡邊唯斗）。

苦前中高生 初の合同発表

【苦前】苦前商業高生と苦前中生が本年度取り組んできた学習の成果を報告する「とまさえ発表会」が29日午後1時半から町公民館で開かれる。合同での開催は初めて。苦前商業高の1年生は郷土芸能「豊饒太鼓」の「鼈風」の練習を重ねている。

町内できょう開催

苦前中は「とまさえ」全員で「豊饒太鼓」に挑科、「苦前商業高では「とむ」「鼈風」は1915まさえ学」としてそれぞれ年(大正4年)に町内でれ地元苦前町の歴史や産業、まちおこしを学び、探究を深めている。今年は町教委の仲介もあって「お互いの学びを知って、立ちはだかりを乗り越え効果につながれば」と合同発表会が実現し現する。

2、3年生は地元の農業者に聞き取った「困り感」解決策や、生徒が町に特産品のマスクコットを置いたり、フォトコンテストを開催したりするなど、地域PR活動について報告する。

苦前商業高は1年生が同校の佐賀優真教諭は

地域PRの取り組み報告 苦前中

「豊饒太鼓」の演奏に挑戦 苦前商高1年

農家の「困り感」解決策は 苦前商高2、3年



「中高それぞれ苦前について学んだ内容を共有し、より深い探究につなげ、農業高生

(森麻子)
6へ。
電話0164・65・407
中学生には進路選択の参考になれば」と期待する。
発表会は参加無料。問い合わせは町公民館、電

2年生が地元漁師から鮭トバ作りのコツ学ぶ

苦前商高

【苦前】苦前商業高校（板野成人校長）の「鮭冬葉作り」が25日、町公民館生活技術研修室で開かれ、生徒たちがサケのさばき方や新しいトバ作りのコツを学んだ。

鮭トバ作りは、マチの漁業や農業を学ぶとともに実際に生産者の下へ出向き、

見学などをしながら商品がどのようなルートを巡って消費者の手に渡るのかを調査することを目的に、各種活動を行っている「地域学オロロンデザインⅠ」の一環。今回は2年生13人を対象に実施した。

講師は町内在住の漁師磯崎功さん。例年この時期に

苦前公民館講座やシニアスクール事業の一環として行われる「鮭トバ作り」でも講師を務めており、秋サケ

を使い磯崎さんがブレンドした特製の調味料で味付けする鮭トバは、参加者の好評を集めている。

昨年は、価格が高騰していることから秋サケの代わりにホッケを使用。「ホッ

ケのトバもおいしく好評だったが、今年はホッケが高くなってしまった」と磯崎さん。この日は体長50cm以上の秋サケ20匹を用意。磯崎さんは「冬休み前に皆さんへ渡せんがさばき方を実演したあらう、暖房をつけてでもと、生徒たちが挑戦。包丁を使つて1人1匹ずつ、三ヶ、生徒たちは鮭トバ完成枚におろしてから、身を力でこねる。初めて魚をおろす生徒もあり、作業開始直後は手間取る姿も見られたが、徐々にコツをつかみ2匹目をさばき始める生徒も。さばき終えた秋サケは

作業終了後磯崎さんは「冬休み前に皆さんへ渡せんがさばき方を実演したあらう、暖房をつけてでもと、生徒たちが挑戦。包丁を使つて1人1匹ずつ、三ヶ、生徒たちは鮭トバ完成枚におろしてから、身を力でこねる。初めて魚をおろす生徒もあり、作業開始直後は手間取る姿も見られたが、徐々にコツをつかみ2匹目をさばき始める生徒も。さばき終えた秋サケは

評を集めている。

（雪田康一郎）



磯崎さん（左）からサケのさばき方を教わる
苦前商業高校の生徒



包丁を使い鮭トバにする秋サケをさばく苦前商業高校の生徒

羽幌高チームが優勝

**建設業
クイズ 留萌市で地区予選開催**

高校生建設業クイズ選手権北海道大会「コンストラクション甲子園」留萌地区予選が、11月29日午後1時から留萌市中央公民館講堂で開かれ、留萌管内高校生が熱い戦いを繰り広げた。学生に建設業界への関心を深めてもらうことなどを目的としたクイズ大会。同日、道内各地で地区予選が開かれ、北海道大学の高野伸栄教授が問題監修を行った。

萌志会（留萌建設協会二世会、藤野徹会長）主催の留萌地区予選には留萌、羽幌、苫前商業の3校から、1チーム2人で構成した11チームが出場。開催に当たり藤野会長が「果敢にチャレンジして、良い結果を出していただけたらと思います」とあいさつした。この後、全チームで筆記テスト30間に取り組んだほか、4チーム2ブロック、3チーム1ブロックに分かれ、2択クイズ7問、4択クイズ8間に挑戦。各ブ

ロックで筆記テストと2、4択クイズの総合得点が高かった上位2チームが、決勝に進んだ。

決勝は12問のパネルクイズを実施。高校生は各チーム2枚ずつ配布された、得点2倍カードの使い所も考えながら、民族共生象徴空

「蒲焼」（苫前商業）、「ケーバイキング」（留萌）に60点差をつけた。昨年も出場したが、タイブレークの末、苫前商業のチームに敗れてしまった大

間「ウボボイ」などに関する問題に答えた。

結果、いずれも羽幌2年の大田蒼輔君（17）、天谷心さん（17）のチーム「大化の革新」が360点で優勝。300点で同率2位の

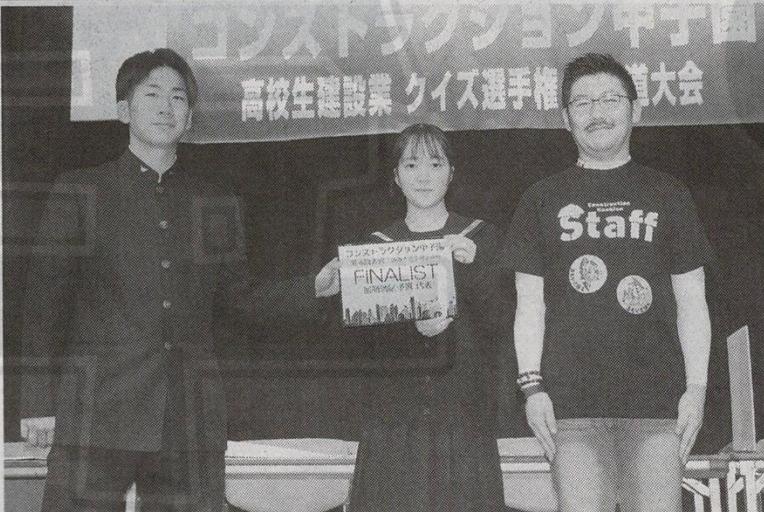
田君、天谷さん。リベンジを果たすことができ「最高です」と喜んだ。

と気合十分に話していた。

2人は、留萌地区予選の結果を受けて、来年1月24日に札幌市のサッポロファクトリーアトリウムで開かれる決勝大会出場が決定した。ほかの地区予選会から勝ち上がったチームと沖縄旅行を懸けて戦う。

大田君は「勉強して良い成績を残せたらなどと思いま

期北海道総合開発計画を周知するパネルの展示、るも



優勝した羽幌高校の（左から）大田君、天谷さん。
右は萌志会の藤野会長



留萌地区予選で行われたパネルクイズ

【苦前】苦前中と苦前
商業高の生徒が、地域学
習の成果を報告する「ど

ままえ発表会」が、町公
民館で開かれた。生徒た
ちの実践報告に、保護者

苦前元気に 中高生発表

合同で初 両校でディスカッションも



ステージで学習の成果を披露する苦前商業高の生徒

や町民らが大きな拍手を送った。

両校はそれぞれ、総合的な学習の時間などを利用して地元苦前町の歴史や文化を学んでおり、11月29日に初めて合同発表会を開催した。

同高の2、3年生は、校内選考を経た2グループが発表。町内や札幌などで地元産品の販売実習「苦前市場」を行ったグループは、コスト削減や仕入れ方法の見直しで昨年度までの赤字を解消し、本年度4万円以上の黒字を達成したと報告した。

ループの「豊饒太鼓」の「罷風」を披露。町内で1915年（大正4年）に7人が犠牲になつた三毛別ヒグマ事件をモチーフにした和太鼓の演奏で、力強い拍子さばきを見せた。

発表会ではこのほか、同高の1年生が郷土芸能「豊饒太鼓」の「罷風」を披露。町内で1915年（大正4年）に7人が犠牲になつた三毛別ヒグマ事件をモチーフにした和太鼓の演奏で、力強い拍子さばきを見せた。

（森麻子）

